３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.467-468

ForestNovaの新入生が嵐山の活動に参加

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

　とても気持ちの良いすがすがしい日曜日でした。今日は朝から、山主の鈴木様他と嵐山基地の整備の状況説明と土地の使用貸借に関する話をしました。とてもご理解のある地主さんで楽しく会話が弾みました。その後、森林整備班はチェンソーの整備と小屋の整理をした。チェンソーのプライマリーポンプが劣化してきたので、注文し交換することにした。
　続いて、小屋周辺の清掃を行った。ドラム缶や発電機などの大きな金属類を処理するため、明日、業者を呼んで片付けることにした。

　さらに翌日月曜日には、嵐山基地の清掃活動を臨時で行った。午前から川田、宮村、午後から小林が合流。鉄屑関係を業者に4トントラックで来てもらいドラム缶、発電機装置その他鉄板類などの破棄が出来、基地周りが大分すっきりした。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

溶接に使ったのか？大型のプロパンガスボンベの残骸も茂みの中に埋まっていた。20年の重みを感じた瞬間である。（報告：小林　照夫）

　私は今回初めて嵐山の活動に参加しました。
　午前は嵐山の頂上まで登りました。山登りは慣れていないのでとても疲れましたが、山頂からは相模湖が見えて、いい景色を見ることができたのでよかったです。その後の下りは滑らないように注意しながら進むので、恐怖が少しあり、登りよりも疲れました。でも先輩はどんどん進むので、すごいなと思いつつ、もっと体力が必要だと実感しました。
　午後はみんなで木を一本切ることになり、先輩が入れてくれた切り込みから一年生で切り始めましたが、大きめの木を切るのは初めてなので不安がありました。やっていくうちに、ノコギリの使い方で、「水平に動かす」「刃の全体を使う」などアドバイスをもらい、予定した向きより多少のズレはあったものの、なんとか切り倒すことができ、達成感がありました。ただ、時間がかなりかかったので、今後は素早く、1人でもできるくらいの力をつけたいと思いました。
　小原・嵐山の活動を終えて、とても疲れましたが、達成感もあり、知らなかったことを知ることができたりと、良い体験ができました。（報告：別城　夏子）

　基地広場前の花壇の草取り、畑部分では葉玉ねぎを収穫して希望する参加者に提供できた。その他若干のバラの手入れと立木数本の剪定。その他の庭園部分は草の生い茂る時期になってきた。使えるはずの２台の除草機のうち１台は使用不能。他の１台で午前中はかなりはかどったが、これも午後に不具合となってしまい、刈り残しがだいぶ出た。
　モッコウバラのアーチは先月までに形よく整ったのだが、今年は花の付きが悪かった様子で、残念ながら、基地移転前の最後の花を咲かせる見せ場はなしに終わったかと思われる。（報告：石原　邦雄）

　地球環境部も嵐山での活動の見直しに入っている。倉庫備品については間伐に必要な道具と、生態系調査に使う道具類とほぼ整理が終わっている。望星の森については今後も活動を続けてもらいたい、という地主さんとの打ち合わせを終え、もう何本も切らないであろう森での間伐に。今回はフォレストノバで初めて森に参加する、という学生さんもいたので、一緒の作業となった。地球環境部はいつまでも頼りないなあ、と思っていた中３生をリーダーにしての間伐。ところが石の上にもなんとか、ではないが、見事な

受け口。追い口も無難にしっかり入れ、ツルを残したまま予定通りの伐倒。本人も少し誇らしげ。私が都の教員をやめ、学芸大で勤務してから入った中学生の部員（つまり一度も教員⇔生徒だったことがない）も指示がしっかり入り、滑車をスムーズに設置。普段、日常生活ではまず経験しないであろう作業や道具をきちんと使い、大学生の見本になれた、かなと思える１日となった。

続いての月曜日も小林さんの報告にあるように、まとまった時間をかけなければ整理できないものから取り掛かった。特にセブンイレブンからご支援いただいた軽トラが大活躍し、金属回収業者の方にも運搬をお手伝いいただきながら、金属類はほぼ整理ができた。問題は小屋自体の「木材」だ。ゴミにしてしまっては間伐材の活用にはならないが、材としての再活用は難しいのでやはり「エネルギー」としての活用しかないかと思案中である。（報告：宮村　連理）

【定例活動報告】知足の森

これ以上ないという晴天の中の活動日となった。暑くもなく寒くもなく、このコンディションで励むのはまさにボサ刈り。いつもやっているような気もするが。ゴールデンウィーク真っ只中というのに、中高大学生と大人スタッフ２名の１３名。広葉樹の除伐に取り組んだ。学芸大小金井中では、部活動ではなく総合的な学習の時間の講座の一つとして取り組んでいるので、この時期は講座開設前、よって参加するのは昨年の講座受講者となる。部活動とはまた少し違ったモチベーションの彼らだが、基本山仕事は気に入ったようで、今週末活動だけど、というと参加してくれる生徒も結構いたりする。そんな彼らも1年通っているので、足さばきやノコギリのうまさもなかなか。何よりも集中力がすごい。次から次へとケヤキやコナラのひこばえ、と言っても腕よりも太くなってしまっているものも珍しくないなか、切っては枝を払い、切っては並べていく。飲み込みも早いし、作業も正確。まもなく受験が本格化するので、いったんお休みにはなるが、受験が終わったらまた、と誓い合い（もしかしたら一方的にだったかも）、作業は無事に終了。終わった時の晴れ晴れとした表情は学校では見ないすっきりとしたもの。そういえば、あと何回通うんですか？１０回通えば意味が体でわかる、と言いながら気づいたら数えるのをやめた生徒も。１０回になる前にこの活動の意義が体でわかったのだとしたら、などと考えながら帰路についた。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「マタタビ（*Actinidia polygama*）」

写真１
マタタビの虫こぶの実

嵐山の集合場所に近い木工班の基地「モマ工房」から斜面上部に向かって緩い傾斜で広がるスギ林、その林床にマタタビの蔓が一群れありました。2007年9月16日のことです。蔓には見事な虫こぶ（虫瘿ちゅうえい）で扁平になった実が沢山ついていました（写真1）。漢方でいう木天蓼（もくてんりょう）で、体を温め腹痛や腰痛を和らげる薬効があるといいます。マタタビの実や漢方薬素材の虫こぶの実を使って作る果実酒（薬用酒?）にはファンが多いようで、色んな作り方が薀蓄（うんちく）とともにネットで紹介されています。

タマバエの寄生がない場合の普通の果実は同属のシラクチズル(*A.arguta*、サルナシ・コクワともいう)に似た、しかしほっそりした実

写真２　マタタビの実

写真３　白くなった葉

写真４　葉の裏に咲く白い花

を付けます（写真2；2007.08.26富士山麓）。熟すと柔らかくなり、ほのかな甘みがでてきます。触って柔らかいのを確かめてから摘んで食べるのはこの時期の楽しみです。キウイフルーツ(*A.chinensis*)は中国原産の同属の種だそうです。

このマタタビの花開く時期が6月です。この時期、蔓の先の方の葉には白くなるものが増えます。6月27日に群馬県水上町照葉峡で見事な白い葉をみました（写真3）。その白い葉の陰にひっそりと、しかしかなり大きな綺麗な花を点けます。葉を白く目立たせてその陰に花があるのを訪花者に知らせているようです。葉の陰に花を咲かせるのは花を保護する仕組みかもしれません。2017年6月18日に嵐山のスギ林の中に、綺麗に咲いた花を見ました（写真4 ）。この花をみつけるのは初夏の山歩きの楽しみの一つです。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】
地球環境部

今月号では地球環境部のご指導をいただいている粟田さんにご寄稿いただきました。

「活動に参加して」

相模の森に通うようになって、1年ともう一つの季節が過ぎようとしています。

背がどんどん伸びる子、なんとなく雰囲気が落ち着いてきた子、長年の単身赴任で見逃してきた自分の子どもの成長を想像する機会をいただいています。

子供たちの成長は、それだけではありません。2018年5月5日、まさに“こどもの日”の活動に参加してそれを強く感じましたので、書き留める次第です。

その日は、長福寺さん下の斜面で雑木を切り、土止めを兼ねて斜面に置いていく作業でした。かなりの急傾斜で表土は崩れやすく、足元をしっかり固めないとのこぎりが使えないような状態でした。そんな中、宮村さんの号令一下、作業を開始した子どもたちは、苦にすることもなく斜面を登り作業を始めました。

いつもの光景といえばそれまでなのですが、当日は初めて森に来た“彼（男子大学生）”が混じったために、子どもたちの『経験知』が際立ったのでした。子どもたちが、何気なく、いつもどおりに作業する傍らで、年長の“彼”は、不安定な足場で作業することはもとより、斜面を移動するのにも四苦八苦していました。子どもたちが森で過ごした時間は嘘をつかないことをあらためて感じました。

“彼”の名誉のために書き添えておきますが、“彼”が一生懸命作業に取り組んでいたことは言うまでもありません。また、“彼”の素晴らしいところは、斜面での動き方や木の切り方、処理の仕方などを素

直に子どもたちに教えを乞うていたことです。きっと近い将来、“彼”が森で必要な経験知を身につけ、初めて来た人の手伝いができるようになると確信しています。

そんなことを縷々感じさせてもらえる活動に、今後も参加させていただければ幸いです。

粟田　浩史（本会、会員）

また、今年度からの参加となった学芸大小金井中２年生男子の感想も併せてご紹介します。

初めての課題研究「実際に取り組む環境問題」の実習を行いました。学校に貼ってあった先輩方の写真はどれも笑顔ばかりで大変そうには見えなかったが、実際に行ってみて傾斜がすごく急な崖だったので、とても危険な場所だということが分かりました。

今回の活動では、主に一つの場所からたくさん生えている木を一本や二本にして、日当りをよくしました。普段、のこぎりをあまり使わなく、さらに木を切らないので初めての体験でした。のこぎりは、押すときではなく引くときに力を入れるとよく切れ、はやくできます。また木と垂直に切ると断面の面積が少なくて済むということを初めて知りました。

切った木はついている枝を取った後、等高線に平行にして、置くと土砂崩れなどの防止になるということも教えてくれました。切った木が他の木に引っかかってしまうときは、本当はやってはいけないことだが打つ手がなくなったら、倒れた木の真ん中あたりを切ると地面に落とせることもあり、その場その場で考えることが重要だと思いました。

今回活動した森は人工林です。日本の森の半分近くを占める人工林は、木々が成長すると森が混み合い日光が入らなくなるため適度に伐採をするという手入れが必要だということで木を切ることになりましたが、木を切るにも様々な手順があり大変でした。

今日、このような貴重な体験をしたことを踏まえて次回の課題研究につなげていけたら良いなと思っています。

【若者の森づくり】Forest Nova

私は嵐山にて初めてForest Novaの活動に参加させていただきました。そこではいろんな年齢の方々が各々目的を持って活動していました。自分より年下の人たちも活動していて負けないように頑張らなきゃなと思いました。

活動では自分たちが間伐をする山を登ったり木を実際に切ってみたりしました。山の頂上では相模湖ダムがちょうど見えるように木々に空間があったり、大きなモンキアゲハや5月にもかかわらずトンボも見ることができました。吹く風がとても気持ちよかったです。

実際に切った木は周りに比べると細かったのです。けれどなかなか切れませんでした。ノコギリでまっすぐ切ることがとても難しかったからです。先輩方に教わりつつ1年生4人で交代して切っていたのですが自分などは体力が全くなくすぐ交代してもらっていました。最終的に木は切ることは出来ましたがとても疲れてしまったのでいつか1人で綺麗に切れるようになりたいと思いました。

西山　香瑠（Forest Nova）

【イベント報告】
狛江市エコこままつり

６月第１日曜日森での定例活動の日でしたが、狛江市の環境イベントに積み木を貸し出しさせていただきました。学芸大、ともに協働しておりますNPOこがねい環境ネットワークの神村さんにご準備いただき、今回の積み木広場も大盛況でした。市側の配慮で、飲食スペース近くに場所をセッティングしていただけたので、保護者の方はそこでゆるりとお茶をしながら、子どもたちは夢中で積み木を、ということになりました。また同大の大学生もスタッフとして参加してくださり、新しい繋がりができた、ということでした。本イベントから「相模湖・若者の森づくり」パネルも投入されており、掲示していただきました。また同じ連携で、小金井市公民館での間伐材の組手什による耕作体験教室、はじめての家具職人パート２も申し込み初日で定員に達したそうです。今回も本会による森のお話をさせていただく予定です。

【事務局から】

通常総会を開催します

６月第３日曜日の活動後に県立交流センターにて通常総会を行います。会員のみなさまにはすでに郵送にて出欠のご連絡をさせていただいておりますのでご返信をお願いいたします。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。